

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・道徳科

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・茨城県ユニセフ協会による講話を聞き、ユニセフの活動や子どもの人権についての理解を深める。
- ・ワークショップを通して、よりよい学校にしていくために大切なことについて考えることができる。

実施した内容

- ・茨城県ユニセフ協会による講話を聞く。
- ・各学年に分かれて、「人からされて嬉しいこと」「人からされて嫌なこと」を考え、意見を出し合う。
- ・「人からされて嬉しいこと」「人からされて嫌なこと」を共有し、よりよい学校にしていくために大切なことについて考える。

工夫した点

- ・茨城県ユニセフ協会のスタッフを講師として招き、講話や資料の説明をしていただいた。
- ・ワークショップ型の活動を行うことで、多様な意見が出るようにした。
- ・授業参観日に本時を設定することで、保護者の方にもワークショップに参加していただいた。
- ・ワークショップで使用した模造紙を掲示し、学習内容を振り返ることができるようにした。

他教科との
関連

- ・各学年、特別の教科 道徳で「善悪の判断、自律、自由と責任」（内容項目A）や「よりよい学校生活・集団生活の充実」（内容項目C）の学習をする際、本時で話し合った内容に関連させながら指導を行った。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

3～6年を対象としたアンケートから

- ・知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「子ども」と回答した児童の割合
事業開始時：49.3%→事業終了後：67.2%

【児童変容の分析】

自分たち「子ども」にも人権があること、人権を守らなければならないことについての理解を深めることができた。

全学年を対象としたアンケートから

- ・価値的・態度的側面：「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：87.1%→事業終了時：94.9%

【児童変容の分析】

人からされて嬉しいことを生活の中で心掛けることで、よりよい人間関係を築いていこうとする態度が育ってきた。

- ・技能的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：93.9%→事業終了時：96.9%

【児童変容の分析】

友達との関わりの中で、良いことと悪いことを判断し、相手の気持ちを考えながら行動しようとする姿が見られた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

5 年 家庭科

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

- ・家事分担に占める女性の割合の高さが分かる。
- ・家事において、男女で違いがあるのではなく、共同参画の時代において、男女相互の理解を深め、よりよい家庭集団を作ろうとする心情や態度を育てる。
- ・自分にできることを考え、家での仕事に参加する意欲をもつ。

実施した内容

- ・自分や家族の生活リズムについて調べる。
- ・家族が家でどのように過ごしているか、気付いたことや各家庭での違いを話し合う。
- ・家事や外での仕事など、性別によって内容に偏りがあることについて考える。
- ・自分の生活を振り返り、自分にできる家事や手伝いについてまとめる。

工夫した点

- ・ひとり親家庭の児童に配慮し、詳細な情報は聞かないようにするなど、個人情報の取り扱いには注意した。
- ・これまで学習してきた内容を想起させ、男女の違いにかかわらず、多くの家事ができるようになっていくことに気付かせた。
- ・家族と自分の一日の過ごし方を比べ、男女で家事の内容を考えさせることで女性の家事分担の割合の高さに気付かせた。

他教科との
関連

- ・体育（保健）「犯罪被害の防止」を学習した際、女性の性被害について触れ、家庭が安心できる場所であることの重要性について考えるきっかけとした。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 5 年生を対象としたアンケート結果から

- ・知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「女性」と回答した児童の割合
事業開始時：39.1%→事業終了後：68.2%

【児童変容の分析】

これまでは「男尊女卑」の風潮があり、亭主関白に代表されるような「家事は女性の家事」とされている時代があったということを知ることができた。また、現代は「男女共同参画」の時代として、よりよい家庭集団を構成するために、男女かかわらず家事をすることの大切さを知ることができた。

- ・価値的・態度的側面：「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：90.9%→事業終了後：100%

【児童の変容の分析】

家族の家事分担について考えることで、家族の一員として自分にできることを増やし、家事の一部を担おうとする態度が身に付いた。

- ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：90.9%→事業終了後：91.3%

【児童の変容の分析】

男女ではなく、個々の特性を發揮できるような家事分担や就業が大切であると考え、よりよい社会の実現に向けて自分自身の能力を高めようとする様子が見られた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

4 年 総合的な学習の時間

時数等

20 時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者の現状や課題について理解を深める。
- ・ 高齢者に対する偏見を取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・ 体験を通して、高齢者に対して思いやりをもち、自分たちに何ができるかを考え実践していこうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ 那須町の高齢者を取り巻く現状について調べる。
- ・ 身近にいる高齢者のことを思い出し、日常生活での困り感を考える。
- ・ 高齢者疑似体験を通して、高齢者への理解を深める。
- ・ 認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について理解を深め、認知症の方への接し方や認知症サポーターとして自分にできることを考える。
- ・ 身近にいる高齢者へインタビューを行い、高齢者と交流する。

工夫した点

- ・ 自分たちの住んでいる町では、年々高齢者の割合が増加しているなど、高齢者の人権問題がとても身近な課題であると感じられるよう、学習の初めに那須町の高齢者を取り巻く現状について調べた。
- ・ 高齢者疑似体験では、高齢者、介助者それぞれの役割を体験し、高齢者の困り感や介助者が心掛けるべきことをそれぞれの視点から実感できるようにした。
- ・ 身近な高齢者へのインタビューでは、マイナスな面だけでなく、プラス面にも目を向けられるよう、高齢者の今までの経験や知恵などについても質問した。

他教科との
関連

- ・ 道徳で親切、思いやりについて学習した際に、本学習と関連させ、高齢者の立場になって考えることができるようにした。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも4年生（10名）を対象としたアンケートから

- ・知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「高齢者」と回答した児童の割合

事業開始時：55.6%→事業終了後：87.5%

【児童変容の分析】

高齢者が抱える問題や介助者の抱える問題について理解を深めることができた。

- ・価値的・態度的側面：「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合

事業開始時：88.9%→事業終了時：87.5%

【児童変容の分析】

認知症を患っている高齢者や筋力が衰えている高齢者を介助する際に、どのように接すればよいか考えることができた。

- ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合

事業開始時：100%→事業終了時：87.5%

【児童変容の分析】

授業後は、日常場面で高齢者が困っているときには助けてあげたいという言動が見られた。技能の育成のためには、高齢者施設への訪問など、実際に高齢者と関わる機会を設けることが必要であると考えた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

4 年 総合的な学習の時間

時数等

4 0 時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害者の現状や課題について理解を深める。
- ・ 障害者に対する偏見を取り除き、障害者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・ 体験を通して、障害者に対して思いやりをもち、自分たちに何ができるかを考え実践していかうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ 障害者を取り巻く現状について調べる。
- ・ アイマスク体験や車いす体験を通して、障害者への理解を深める。
- ・ 点字教室を受講し、点字や視覚障害者について理解を深める。

工夫した点

- ・ アイマスク体験や車いす体験では、障害者、介助者それぞれの役割を体験し、障害者の困り感や介助者が心掛けるべきことをそれぞれの視点から実感できるようにした。
- ・ アイマスク体験や車いす体験をした後、障害者と健常者が一緒に遊ぶための工夫について考えさせた。
- ・ 障害者スポーツについても取り上げ、プラス面についても目を向けるようにした。

他教科との
関連

- ・ 道徳科の授業で、「公正、公平、社会正義」（内容項目 C）の学習をする際、本学習を想起させ、誰もが過ごしやすい社会にするために大切なことについて考えた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 4 年生（10 名）を対象としたアンケートから

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「障害者」と回答した児童の割合

事業開始時：66.7%→事業終了後：87.5%

【児童変容の分析】

体験を通して、障害のある人たちの不自由さを知ることができた。

- ・ 価値的・態度的側面：「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合

事業開始時：88.9%→事業終了時：87.5%

【児童変容の分析】

障害者が使う道具などについて調べ、障害者が抱える問題を解決していこうとする態度が育ってきた。

- ・ 技能的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合

事業開始時：88.9%→事業終了時：87.5%

【児童変容の分析】

障害があるからと差別せず、思いやりをもって接することが大切だと考え、自分たちにできることを考える姿が見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年 社会

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・江戸時代の身分制の経緯や時代背景について理解する。
- ・差別を受けた人々の思いや願いを考えることができる。
- ・差別に苦しみながらも、優れた技術や芸能を用いて、社会や文化を支えた人々の思いや願い、生き方について考える。

実施した内容

- ・江戸幕府の政治の方法について、資料をもとに理解する。
- ・幕府がなぜ身分制を始めたのか、時代背景をもとに考える。
- ・差別を受けた人々の思いや願いについて考える。（本時）
- ・優れた技術や芸能はどのように生まれたのか考える。

工夫した点

- ・これまでの社会科の学習を想起させ、時代背景や武士の思いを理解させた上で、身分制が始まってしまった理由を考えさせた。
- ・差別を受けた人々の思いや願いについてペアやグループで話し合わせた。
- ・NHK for school等の動画を活用し、理解を深めた。

他教科との
関連

- ・道徳科の授業で、いじめや人種差別の問題について学習した際に、本学習を想起させ、深く理解させた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 6 年生を対象としたアンケート結果から

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、同和問題と回答した児童の割合
事業開始時：22.2%⇒事業終了後：35.3%

【児童変容の分析】

過去の身分制と現在の同和問題との関連性を理解することができた。しかし、具体的な同和問題については、理解が乏しいので、継続して取り扱っていきたい。

- ・ 価値的・態度的側面：「正しいことを行い、よくないことをただそうとしていますか。」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：88.9%⇒事業終了間際：94.1%

【児童変容の分析】

授業後の振り返りにおいて、差別の不当性を感じ、差別を否定するとともに、差別されている人々に寄り添おうとする記述が見られた。

- ・ 技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：88.9%⇒事業終了間際：94.1%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

6年 社会

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・北海道の「開拓」で、アイヌ民族の生活がどのように変化したのか理解することができる。
- ・国や地域には様々な民族が存在することを知り、それぞれの歴史と文化を理解し、尊重しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・明治時代初期の政府の政策について理解を深める。
- ・北海道の「開拓」とアイヌ民族の歴史について知り、アイヌ民族への差別について考える。
(本時)

工夫した点

- ・北海道がアイヌの人々の断りなく一方的に日本の一部にされてしまった事実に気付かせるために、アイヌの人々の名前がどのように変化したのかを年表を用いて考えさせた。
- ・アイヌ民族にとって「開拓」がどのような意味をもつのか考えさせた。
- ・児童の理解を深めるために、写真や動画を用いて、様々な民族の歴史や文化を紹介した。

他教科との
関連

- ・道徳科の授業で、外国の文化について学習した際に、本学習を想起させ、お互いの文化を理解し尊重し合うことの大切さを感じさせた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 6 年生を対象としたアンケート結果から

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「アイヌの人々の人権問題」と回答した児童の割合
事業開始時：16.7%⇒事業終了後：64.7%

- ・ 価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか。」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：100.0%⇒事業終了間際：100.0%

【児童変容の分析】

アイヌ民族を始めとする様々な文化をもつ民族について理解を深めたことで、外国語の授業においても、他の国の文化を認め、尊重しようとする態度が見られた。

- ・ 技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：88.9%⇒事業終了間際：94.1%

【児童変容の分析】

様々な民族の歴史や文化を受け入れるとともに、これからの社会で少しでも差別を解消しようと考え、記述する様子が見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・外国語科／外国語活動

時数等

1時間ずつ

目標・人権教育のねらい

- ・ A L T と触れ合ったり外国の文化を教えてもらったりする活動を通して、他国の文化や価値観を尊重するとともに、互いの良さや違いを認め合う態度を育てる。

実施した内容

- ・ 外国語科の授業をはじめ学校行事「ALTとの交流会デー」を通じて、外国のあいさつや遊びを教えてもらい、一緒に楽しむ。（1，2年）
- ・ 外国の生活様式、学校生活の紹介や日本に来て嬉しかったこと、大変だったことなど A L T 自身の経験談を聞く。（3～5年）
- ・ 「これをされたら嬉しい」「これだけは嫌」という本音を聞くとともに、児童からも日本人として「これをされたら嬉しい」「これだけは嫌」という内容を紹介する。（6年）

工夫した点

- ・ 町内の A L T 5 名全員に来校していただき、その日1日を「A L T との交流会デー」とした。
- ・ A L T の先生方に資料作成をお願いし、多くの写真資料を提示してもらった。
- ・ 授業以外の給食や昼休み、清掃でも交流できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 各教科で「外国人」に関する学習をする際、本学習を振り返り、外国には様々な文化や価値観があることを想起させながら指導を行った。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

3～6年を対象としたアンケートから

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「外国人」と回答した児童の割合
事業開始時：59.7%→事業終了後：85.9%

【児童変容の分析】

日本と外国では、文化や生活様式、価値観が異なり、それが差別や偏見につながる恐れがあるということに気付くことができた。

全学年を対象としたアンケートから

- ・ 価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：97.8%→事業終了時：97.2%

【児童変容の分析】

日本とは異なる外国の文化や生活に関心をもち、進んで親しもうとする姿勢が見られた。異なる価値観や考え方に触れる機会を増やしていけるとさらに効果的だと考える。

- ・ 技能的側面：「あなたは自分以外の人を大切にしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：96.0%→事業終了時：97.9%

【児童変容の分析】

自分と異なる立場や考え方を受け入れようとする力が育ってきた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

3年 道徳

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

- ・外国人との関わり方について考えることを通して、自分と異なる立場や考え方を理解し、尊重しようとする心情を育てる。

実施した内容

- ・教材を基に、外国からの転校生やその周りの同級生の心情を想像する。
- ・外国の人たちと仲良くするために大切なことを考え、共有する。

工夫した点

- ・事前学習として栃木県教育委員会が作成している人権教育指導資料「人権の窓」を活用し、異文化について理解を深める時間を設定した。
- ・直接的指導として、在日外国人学生に関する記事を紹介した。
- ・宇都宮大学教授上原秀一先生に指導案検討会の段階から参加していただき、指導・助言をいただいた。

他教科との
関連

- ・外国語活動において、A L T に母国の学校や食事について紹介してもらうことで、外国の文化への理解を深めた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 3 年生を対象としたアンケート結果から

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「外国人」と回答した児童の割合
事業開始時：70.6%⇒事業終了後：75.0%

【児童変容の分析】

直接的指導として、日本に来て友達とのかかわり方に悩みを抱えている在日外国人学生がいることを指導した。それにより、自分たちの身の回りにも、自分の気持ちを伝えられず、悲しい思いをしている外国人がいることを知ることができた。

- ・ 価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：94.1%⇒事業終了間際：100%

【児童変容の分析】

外国人かどうか関係なく、相手の立場になって考えようとする態度が育った。

- ・ 技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：94.1%⇒事業終了間際：93.8%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

インターネットに
よる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

6年 国語

時数等

5時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットやSNSを使う上で守らなくてはいけないきまりを理解し、適切な活用方法について考えることができる。
- ・インターネットやSNSが自分や他の人に与える影響について考えを深め、これからの活用の仕方について自分の考えをまとめることができる。

実施した内容

- ・学習の見通しをもつ。
- ・インターネットやSNSのメリットとデメリットについて考える。(本時)
- ・インターネットやSNSとの付き合い方について自分の提案文をまとめる。

工夫した点

- ・日常生活の様々な場面で、インターネットやSNSが活用されていることに目を向けさせるために、家庭での活用方法について事前に調べ学習を実施した。
- ・インターネットやSNSのメリットやデメリットを考える場面では、グループの中で発信者側と受信者側に分かれ、どんな気持ちで活用しているのかを議論させた。
- ・自分の生活と結びつけて考えることができるように具体的な場面を設定させ、提案文を記述させた。

他教科との
関連

- ・道徳科の授業で、SNSとの付き合い方について学習した際に、本学習を想起させ、正しく活用しないと自分も相手も傷付ける可能性があることを深く理解させた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

いずれも 6 年生を対象としたアンケート結果から

- ・ 知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「インターネットによる人権侵害」と回答した児童の割合
事業開始時：44.4%⇒事業終了後：76.5%

【児童変容の分析】

インターネットや SNS には便利な一面もあるが、自分や他の人を傷付ける危険性もあるということを知ることができたようであった。

- ・ 価値的・態度的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか。」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：94.4%⇒事業終了間際：100.0%

【児童変容の分析】

授業で ICT を活用する際は、それを読む人、見る人などの気持ちを考え、投稿しようとする態度が見られた。

- ・ 技能的側面：「正しいことを行い、よくないことをただそうとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：88.9%⇒事業終了間際：94.1%

【児童変容の分析】

インターネットや SNS の情報は、本当に正しいかどうかを考えて活用しようとしていた。直接的指導を通して、インターネット上だけでなく生活の中でも自分の発言に気を付ける様子があった。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・全校集会

時数等

朝の学習

目標・人権教育のねらい

- ・相手の性別や見た目、年齢などから無意識に固定的な見方をしていることに気付く。
- ・一人一人の見方や考え方は違って当たり前であり、自分の考えを押し付けることなく、みんなが自分らしく生きていくことを認め合うことが大切であると理解する。

実施した内容

- ・好きな色や得意なことを使った「私は誰でしょうクイズ」を行う。
- ・一人一人、好きな色や人、なりたい髪型、着てみたい服装などは違うことを確かめる。
- ・好きな色をみんなの前で発表する。

工夫した点

- ・「私は誰でしょうクイズ」に教員を取り上げることで、関心を引くとともに、身近なところでも固定的な見方をしていることに気付かせるようにした。
- ・「自分は～が好き」と言えるだけでなく、相手の「～が好き」を認めることも大切だと確認した。
- ・好きな色の発表では、教員も参加することで、安心して発表できるようにした。

他教科との
関連

- ・各学年、特別の教科 道徳で「個性の伸長」（内容項目A）や「相互理解、寛容」（内容項目B）の学習をする際、本時で話し合った内容を関連させながら指導を行った。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

3～6年を対象としたアンケートから

- ・知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「性的指向・性自認」と回答した児童の割合
事業開始時：13.4%→事業終了後：12.5%

【児童変容の分析】

今回の学習では、「性的指向・性自認」という言葉は使っておらず、内容も「自分らしさ」をテーマにしたものだったので、人権問題そのものに対する理解を深めるには至らなかった。しかし、相手を性別や見た目、年齢などで判断し、固定的な思い込みをしたり偏見をもったりしていと気付くことができたので来年度以降に繋げたい。

全学年を対象としたアンケートから

事業成果

- ・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：97.8%→事業終了時：97.2%
- ・技能的側面：①「あなたは自分以外の人を大切にしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：96.0%→事業終了時：97.9%
- ②「自分の気持ちを伝えることはできていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：85.7%→事業終了時：83.8%

【児童変容の分析】

学習後は、自分の考えを押し付けず、自分らしく生きていこうとする言動が見られた。相手を理解し受け入れる力だけでなく、自分を認め、自分らしさを表現していこうとする力を高めていきたい。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

栃木県

学校名

那須町立高久小学校

人権課題

その他（災害に伴う
人権問題）

対象学年・
取り扱った教科等

防災学習 4～6年

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

・避難所における人権問題について考えることを通して、人権が尊重された避難所生活を送る上で必要な配慮や心掛けを理解することができる。

実施した内容

- ・段ボールベッドやワンタッチパーテーションなど、実際に避難所で使用する資機材の設営及び体験をする。（1時間）
- ・「避難所に来る人々」や「避難所にないものや足りないもの」など、避難所のイメージを出し合う。
- ・避難所において起こり得る人権問題について考える。
- ・それぞれの人権問題について、必要な配慮や心掛けを考える。

（1時間）

工夫した点

- ・町役場の危機管理係に協力いただき、実際に体育館で避難所設営を行うとともに、設営したベッドに寝たりワンタッチパーテーションの中に入ったりするなど避難所体験をすることで避難所のイメージを持ちやすくした。
- ・避難所において人権問題が起きる可能性の高い人々（高齢者、ペット連れの人、乳児がいる家族など）をあらかじめ示すことで、起こり得る人権問題についてイメージしやすくした。
- ・ワークショップ型の活動をすることで、多様な意見が出るようにした。

他教科との
関連

- ・道徳科の授業で、「相互理解、寛容」（内容項目B）の学習をする際、本学習を想起させ、お互いを理解し尊重し合うことの大切さを感じさせた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

事業成果

- ・ 知識的側面：避難所では、様々な人権問題が起こり得ることに気付いた。

4～6年を対象としたアンケートから

- ・ 価値的・態度的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：94.4%→事業終了時：95.8%

【児童変容の分析】

避難所では、誰に対しても差別をせず、相手の立場に立った思いやりや気遣いが大切だという考えを深めた。

- ・ 技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：93.3%→事業終了時：91.0%

【児童変容の分析】

授業後は、自分たちにできることを考え、困っている人や助けが必要な人に手を差し伸べたいという言動が見られた。その思いが実際に行動に繋がるような支援が必要であると考えた。